

平成20年度 事業報告書

特定非営利活動法人日本ウミガメ協議会

I 事業期間 平成19年10月1日～平成20年9月30日

II 事業の成果

平成20年度もこれまで同様にウミガメ類や砂浜に関する活動を行った。近年、これらに対する社会的な関心や、そこから発生する専門的な知識の要求は高まるばかりであり、それに対応するために多くの活動を行った。

日本全国で生じるウミガメ類の産卵、死体の漂着、漁業による混獲の情報を、広く集めて体系的に処理した。特に、ウミガメ類の保護を科学的に行う上で、砂浜における産卵・孵化状況の把握と並んで重要な課題の一つが、海域における生態解明である。高知県室戸市、鹿児島県南さつま市、三重県海山町などの定置網における混獲調査を実施し、標識放流や衛星追跡を実施して、その出現状況や回遊行動の一部を明らかにした。

また、ウミガメ類の基礎的な生態を解明するためにDNA分析用の組織などのサンプル収集を積極的に行い、これを必要とする研究者に提供したり、あらゆる関連情報を広く集積してそれを社会に対して還元したりした。特に、ホームページやインターネットを利用した情報の収集・公開と共有により、ウミガメの研究や保護活動の底辺の拡大、発展及び育成に寄与することができた。

昨年11月に鹿児島県種子島で第18回日本ウミガメ会議を開催した。日本最大のアカウミガメの産卵地である屋久島の隣に位置する種子島であるが、今までウミガメに関するデータが収集出来ずにいた。しかし、種子島で会議を開催したことで地元住民のウミガメや海洋環境に対する意識が変わった。そのことにより、ウミガメ情報の提供やサンプリングをしてくれる調査員ができ、重要なウミガメの産卵地の調査ができるようになった。また、会議中や懇親会では、全国より集まった研究者・調査者同士の交流がおこなわれ、よりいっそう親睦を深めることが出来たと同時にウミガメネットワークの強化をおこなうことができた。

2007年は試験的におこなった大阪湾で偶発的に捕獲されたアカウミガメの保護の活動では、保護したアカウミガメ6個体を7月～12月まで保護し、12月8日に友ヶ島沖にて海へ帰した。その8日後に高知県室戸市の定置網で海へ帰したうちの1頭が捕獲された。この事業により少なくとも6個体のアカウミガメの命を救うことができ、市民の方にもイベントをとおしてウミガメについて知っていただけるいい機会となった。2007年の反響がおおきく、今年も現在4頭のアカウミガメを保護している。昨年同様に12月に海へ帰す予定である。

このような活動に加え、教育・普及活動も積極的に行った。専門学校での講義、様々な大学での講義、さらに一般市民に対する講演活動も積極的に実施した。

Ⅲ 事業の実施状況

1. 特定非営利活動に係る事業

(1) 事業名 ウミガメ類を取り巻く自然環境の保全に関わる事業

1) 統一標識等の配布と再発見情報の管理・集積

(内容) 日本ウミガメ協議会事務局の連絡先と通し番号が刻印された統一標識を作成し、全国の砂浜に産卵のために上陸したメス、定置網等にて混獲された個体、水族館等で飼育されていた個体など装着するべく、関係各所へ配布した。

調査用具配布実績：ノギス 5 本、タグ 5560 個、パンチ等 11 丁 ほか

(配布先) 室戸基地、野間池定置網、宮崎野生動物研究会、串本海中公園センター、小笠原海洋センター、屋久島うみがめ館、日和佐ウミガメ博物館、水産総合研究センター、みなべ町ウミガメ研究班、沖縄美ら海水族館、紀宝町ウミガメ公園 他 計 15 ヶ所

2) 死亡漂着・再捕獲情報の収集と集積

(内容) 一般から寄せられるウミガメ死亡漂着情報や漁業者から寄せられる混獲情報を受けてお礼に粗品を贈呈し、標識が装着されている際には放流者へ取り次いだ。

携帯電話用ステッカーを配布するなどして情報提供を広く一般に呼びかけた。

(実績) 死亡漂着情報：591 件、再捕獲情報：118 件、ステッカー配布：約 5,000 枚

3) ウミガメ産卵地及び定置網の現状調査

① 南日本のウミガメ産卵地における現状調査

(内容) 南日本（特に南西諸島）を中心としたウミガメ類の産卵する海岸周辺において、現地では保護調査を行えるボランティアを発掘し、調査用具・情報の提供や技術指導を行い、地域発信型の自主的な保護活動を行えるような体制づくりを行った。

② みなべ町千里浜におけるウミガメ生態調査

(内容) みなべウミガメ研究班・みなべ町教育委員会と協力して千里浜に産卵するアカウミガメの個体識別およびその産卵した卵の孵化調査を実施した。

③ 高知県室戸市における定置網ウミガメ調査

(内容) 室戸市高岡の高岡大敷組合の協力を受け、調査員を定期的に派遣し定置網に混獲されるウミガメの調査を実施した。

④ 鹿児島県笠沙町における定置網ウミガメ調査

(内容) 鹿児島県笠沙町野間池において、野間池漁業協同組合および鹿児島大学ウミガメ研究会の協力を受け、同地の白瀬定置網他で混獲されるウミガメの調査を実施した。

⑤ 三重県紀北町における定置網ウミガメ調査

(内容) 三重県紀北町海山に新たに基地をおいて、(株) 島勝大敷の協力を受け、中層定置網で混獲されるウミガメの調査を実施した。

⑥ 八丈島における刺網のウミガメ調査

(内容) 八丈島で地元住民の協力をえてエビ刺網に混獲されるウミガメ調査と上陸・産卵調査を実施した。

⑦ 鹿児島県種子島における定置網のウミガメ調査

(内容) 種子島で地元住民の協力をえて定置網に混獲されるウミガメ調査を実施した。

4) 衛星追跡によるウミガメ類の生息・採餌域調査

(内容) アオウミガメの生息・採餌域の把握とその保全につながる基礎情報の入手を目的に、特に東シナ海に出現するアオウミガメに衛星発信器を取り付け放流し、その移動経路を追跡した。

(場所) 鹿児島県屋久島

5) 大阪湾で捕獲されたアカウミガメの保護

(内容) 大阪湾内に出現するウミガメ類は、水温が低下する時期まで湾内に留まり、高い確率で事故に遭遇し傷つき或いは死亡する。そこで、大阪湾内で偶発的に捕獲されたアカウミガメを水温が低下する12月初旬まで閉鎖性の避難所に收容し、必要に応じて治療を施す事業を実施した。

2007年は7月下旬～12月中旬にアカウミガメ6個体を保護し12月8日に友ヶ島沖で海へ帰した。2008年は、アカウミガメ4個体を保護し昨年同様、水温が低下する12月初旬まで閉鎖性の避難所に收容し、必要に応じて治療を施している。

(場所) 神戸空港西緑地ラグーン

6) 国際ウミガメ学会理事会等への出席

(内容) 国際ウミガメ学会の運営や海外と情報交換のために、1月末にメキシコ合衆国バハ・カリフォルニアで開催された第28回国際ウミガメシンポジウムに参加した。さらに、8月中旬にウェスト・バージニア州で開催された理事会にも出席した。

そのほか、4月には米国西部太平洋区漁業管理評議会のウミガメ諮問委員会がハワイで開催され出席した。

7) マリナートル・ダイバーズ・プロジェクト

(内容) 水中でのウミガメの様子を解析するため、全国のダイビングショップ、ダイバーと連携し、水中で撮影されたウミガメの写真を募集し調査をおこなった。

(本活動は三井物産環境基金の助成金でおこなっている)

(実績) 32の個人・団体より、174点の写真が寄せられた。

8) その他 委託・助成事業等

- ・環境省自然環境局委託 モニタリングサイト1000業務
- ・損保ジャパン環境財団 ラーニング制度インターン生受入業務
- ・徳島県自然環境協力員の育成業務
- ・米国西部太平洋区漁業管理評議会委託 アカウミガメの産卵地における保護業務
- ・在日米陸軍 沖縄島トリイビーチ及びホワイトビーチのウミガメ産卵地としての環境評価
- ・在日米海兵隊 基地及び訓練地内海岸におけるウミガメ上陸・産卵調査(沖縄島・静岡県沼津)
※在日米陸軍、米海兵隊の業務は手続き上テトラテックジャパンを通じた下請け業務である。
- ・相良自然環境塾の共催(カメハメハ王国)
- ・「リバイブウミガメ戦略会議」開催(第3回5/30 於神戸市東灘区)
- ・Propeninsula との共同プロジェクト(国際交流・啓発イベントの開催等)
- ・沖縄県砂浜シンポジウム～沖縄の砂浜をどう守るか?～
- ・沖縄美ら海水族館 沖縄本島北部におけるウミガメ調査

事業収入	35,062,784	円	
事業支出	事業費	13,214,789	円
	人件費	4,610,000	円

(2) ウミガメ研究・保護活動の発展と育成に関する事業

1) 黒島研究所運営事業

(内容) 2004年4月に、名称を八重山海中公園研究所から黒島研究所と改名した。従来からのウミガメ産卵調査、サンゴ礁調査、展示館維持運営等の事業を実施した。

2) 学部学生・大学院生の受け入れ

(内容) ウミガメを学部・大学院における研究テーマとして選び、当協議会で指導を受けること

を希望した学生を受け入れた。今年度の受入れ実績：東京大学博士1名、東京大学修士1名、北海道大学修士1名、鹿児島大学修士1名、九州大学修士1名、帝京科学大学修士1名、明治大学1名、三重大学4年生1名、東海大学4年生2名、大阪コミュニケーションアート専門学校2年生5名、神戸動植物環境専門学校2年生4名

3) インターンシップの受け入れ

(内容) 大阪コミュニケーションアート専門学校の卒業生2名
神戸山手大学1名

事業収入		2,221,500	円
事業支出	事業費	1,555,904	円
	人件費	841,900	円

(3) 事業名 日本ウミガメ会議の開催に関する事業

1) 第18回日本ウミガメ会議（おじやり申せ種子島会議）の開催

(内容) 国内外におけるウミガメ類の調査・保護状況の発表や、会員及び関係団体等との相互連絡と情報の収集及び提供、2007年度のウミガメ類の産卵状況などの取りまとめを行う事を目的に開催。特別講演には、オーストラリアのコリン・リンパス博士を招聘した。

(日時) 2007年11月16日～18日

(場所) 鹿児島県西之表市 西之表市民会館

(対象) 一般

2) 第19回日本ウミガメ会議（明石会議）の開催準備

(内容) 国内外におけるウミガメ類の調査・保護状況の発表や、会員及び関係団体等との相互連絡と情報の収集及び提供、2007年度のウミガメ類の産卵状況などの取りまとめを行う事を目的に、2008年11月28～30日に開催予定。本年度は開催地下見や関係各所との打合せを行い、開催の準備を進めた。

(対象) 一般

事業収入		5,116,052	円
事業支出	事業費	2,444,380	円
	人件費	797,886	円

4) 事業名 会員及び関係団体等との相互連絡と情報の収集及び提供に関する事業

1) ホームページによる情報収集・発信

(内容) 日本ウミガメ協議会の沿革、目的や活動等を広く一般に伝えるための手段の一つとして、インターネット上にホームページを設置し、情報の収集や提供を行った。

(日時) 事業年度期間中（10月1日～9月30日）

(対象) 一般

2) 機関紙「マリントララー」の発行

(内容) 日本ウミガメ協議会の活動を広く周知するために、機関紙「マリントララー」第12号および第13号を発行した。今後も年2回の発行を予定する。

(対象) 会員および一般

3) ウミガメ速報の配信 計 35 回

(内容) ウミガメに関わる個人・団体間での連携と情報の即応性を高めるために、電子メール・ファックス等を利用し、ウミガメの産卵情報を中心とした情報を不定期に配信した。

(日時) 事業年度期間中（10月1日～9月30日）

(対象) 会員および一般

事業支出 785,106 円

(5) 事業名 情報誌の作成に関する事業

1) 「うみがめニュースレター」の発行支援

(内容) うみがめニュースレター編集委員会が発行している情報誌「うみがめニュースレター」に原稿を掲載するとともに、発行経費を支援した。

(日時) 事業年度期間中に4回発行 (Vol. 74~77)

(対象) 一般

事業支出 400,000 円

以上